

さつま × しごと

Vol.03



やまさき しんいち
山崎 真一さん (47)

求名地区出身。高校を卒業後、大阪で機械設計の会社に就職。その後、飲食業に転職し、料理修行のために25歳のころイタリアへ渡る。帰国後は28歳から衣類製造業を経営する一方、飲食業も続ける。昨年3月に旧郵便局の建物を利用して居酒屋をオープン。



居酒屋
×
山崎真一

▼求名地区にある居酒屋「大衆酒場はなまる」は、定番のメニューに加えてピザやパスタなどイタリアンの豊富なメニューが並び、様々な客層でにぎわいます。店を切り盛りするのは、同地区出身の山崎真一さん。昼は女性用衣類メーカーを営み、夜は自身の経営する居酒屋で働く多忙な毎日を送っています。

▼山崎さんは高校を卒業後、機械系の会社を経て飲食業に転職。「調理が好きだったからです。やろうと思ったことは考えるより先に体が動いてしまいます」と飲食の道に進んだ理由を話します。大阪と鹿児島のレストランで働いた後、イタリアへ料理修行に。帰国した後は、霧島市でイタリアンの店をしていました。しかし、「求名にあった居酒屋『一体』が閉店することを知って、地域で寄り集まれる場所を無くしたくないと思いました」と故郷での出店を決意。昨年3月に「大衆酒場はなまる」をオープンしました。

▼求名きばいもんそ会の代表でもある山崎さんは、途絶えていた求名市を3年前に「求名どんぐり市」として復活させました。稲富神社を中心に開催されたどんぐり市では、露店や郷土芸能、ドングリにちなんだゲームコーナーなど様々な催しを企画。「小さくてもいいから、年に一度は

地域の人が集まれるようなイベントをしたいと思い、歳が近い人たちに声を掛けて始めました」と山崎さんは話します。他にも町内の他団体と協力し、クリスマスピックニックマーケットも開催。「町外や県外からも多くのお客さんが来てくれました。地域の人が集まり、おじいちゃんやおばあちゃん、子どもたちが『よかった。よかった』と言ってくれたのが何よりもうれしかったですね」とイベントを振り返ります。

▼「集まった人がワイワイ楽しくしているのを見るのが好きなんです。仕事でもイベントでも、地域と関わりを持てるのがうれしいです」と話す山崎さん。料理とともに交流の場を作り、人と人とを繋いでいます。

ピザ焼きに使う器具。長い方は窯に入れるとき、短い方は皿に移すときに使用。



どんぐり市の様子。境内は様々な出し物でにぎわいました。